

令和2年10月19日（月）

教育委員会事務局文化財課

担当者 安、多知

内線 5625、5626

直通 076(225)1844

重要文化財の指定について

令和2年10月16日（金）の国の「文化審議会」（会長 ^{さとう まこと}佐藤 信）において、文部科学大臣から諮問のあった下記の案件の文化財指定が審議され、答申された。今回の答申どおり指定されれば、県内の国指定重要文化財（建造物）は46件となる。

記

○重要文化財（建造物）

名 称	^{きゅうやまぎしけじゅうたく} 旧山岸家住宅	^{おもや} 主屋	^{いたぐら} 板蔵	^{みそぐら} 味噌蔵	^{はまぐら} 浜蔵
所在地	白山市白峰イ72番地1ほか				

きゅうやまぎしけじゅうたく
旧山岸家住宅

名 称 旧山岸家住宅 おもや 主屋 いたぐら 板蔵 はまぐら 浜蔵 みそぐら 味噌蔵 (4棟)

所在地 白山市白峰イ72番地1ほか

所有者 白山市

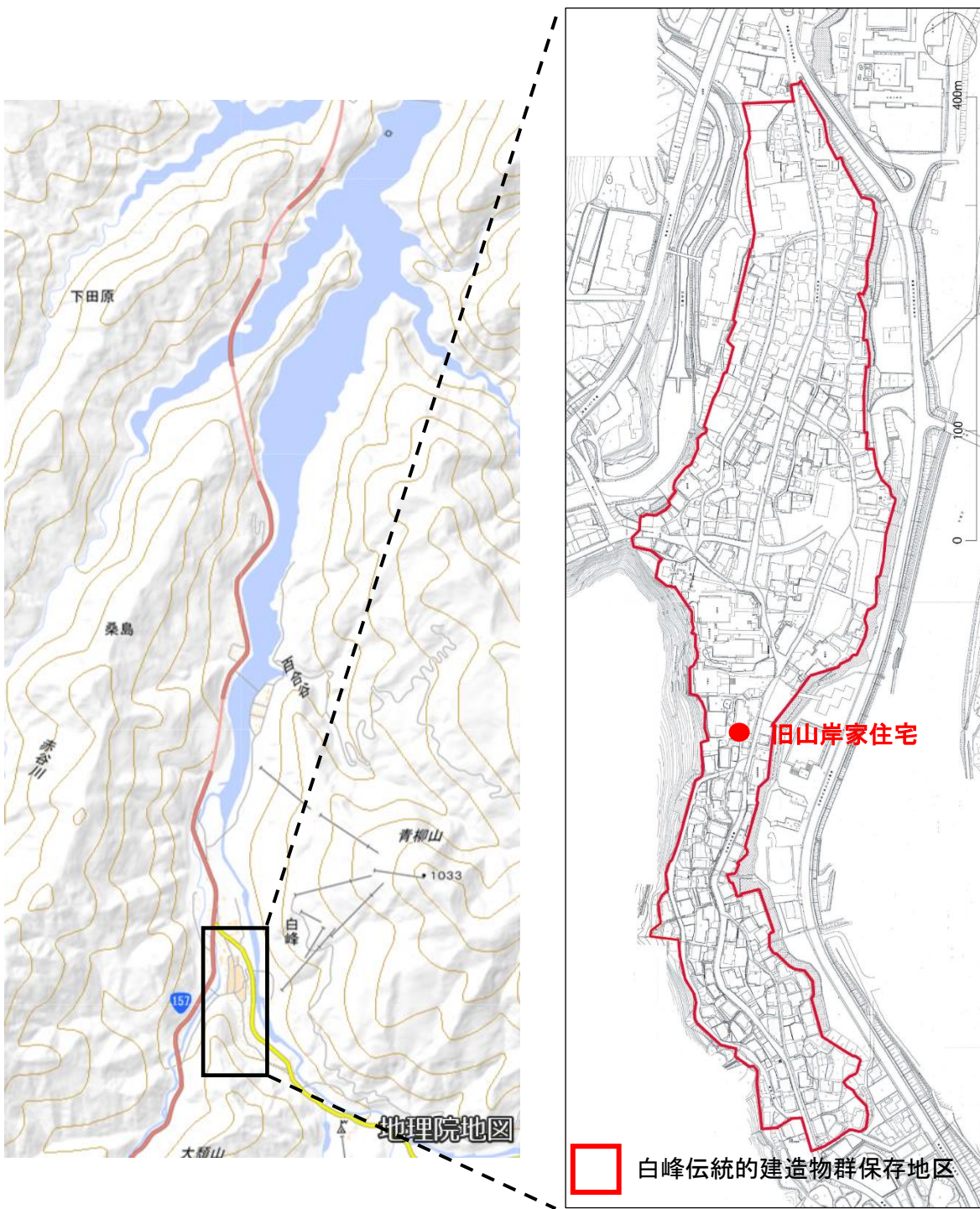
構造形式 主屋：土蔵造、桁行 29.1m、梁間 10.9m、三階建、棧瓦葺
板蔵：土蔵造、桁行 14.6m、梁間 7.2m、三階建、棧瓦葺
味噌蔵：土蔵造、桁行 5.4m、梁間 4.5m、三階建、棧瓦葺
浜蔵：土蔵造、桁行 7.3m、梁間 5.5m、三階建、棧瓦葺

概 要 山岸家は、江戸時代に白山麓^{じゅうはつかそんとりつぎもと}十八ヶ村取次元を代々務め、酒造・養蚕・木材・金融等、活発な経済活動を行っていた旧家である。その住宅は、白峰地区のほぼ中央に位置し、江戸時代末から明治時代前半の主屋、板蔵、味噌蔵、浜蔵の4棟の建物が残されている。

主屋は天保11年(1840)建築の家屋を明治26年(1893)に現在地に移築したものであり、年代が明らかなものとしては白峰地区で最古である。豪雪に対応するための厚い黄土色の土壁や、薪の搬入や積雪時の出入口として設けられた二階の開口部など、伝統的な住宅形式をよく残している。板蔵は弘化2年(1845)頃、浜蔵は慶応2年(1866)頃、味噌蔵は明治9年以前の建築である。

旧山岸家住宅は、白峰地区において伝統的な住宅形式を良好に伝える最上級の民家であり、その屋敷構えの遺例として、高い価値を有している。

旧山岸家住宅の位置図



広域図

詳細図



旧山岸家住宅 主屋



旧山岸家住宅 主屋内観



旧山岸家住宅 板蔵(左)、味噌蔵(右)



旧山岸家住宅 浜蔵